

俳句通信

特別作品30句 青山 丈「梅を見に」
角川春樹「詩の水脈」

特集

〈実力作家22人20句競詠〉

岸原清行	行方克巳
石渡 旬	山崎十生
好井由江	木内憲子
田島和生	名村早智子
山崎房子	武藤紀子
酒井弘司	藤田直子
山田貴世	秋尾 敏
中村幸子	藤本美和子
鈴木太郎	鈴木五鈴
向田貴子	角谷昌子
源 鬼彦	山田佳乃



【新作30句】

下鉢清子「梅の頃」

●作品● 落合水尾・尾池和夫・鈴木しげを・西村和子・高野ムツオ・大高霧海・阪田昭風・檜 紀代・

根岸善雄・今村潤子・白岩敏秀・高橋道子・辻恵美子・永田満徳・岡田耕治・和田華凜・成田一子ほか

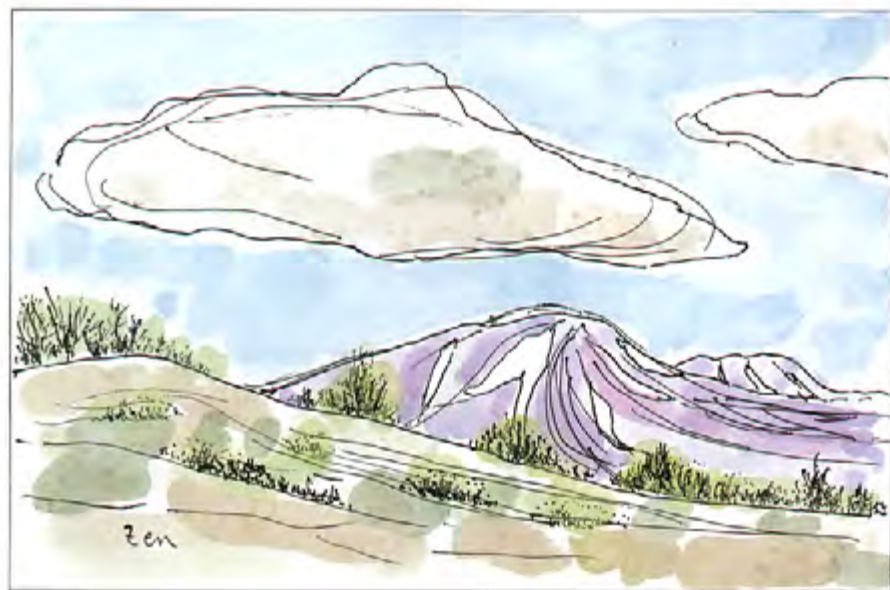
事件

昨年の5月2日未明、嬭恋村、大笹のコンビニで強盗事件が発生、犯人として群馬県警の警部補が指名手配された。ここは以前よく利用した酒屋であった。たまたま翌日から村に滞在したが小屋にはテレビがないので、近くなのに事件については全く知らなかった。

この辺でこんな事件は初めてである。もともと近隣の町ではもっと凄い事件があった。東隣の長野原では内ゲバ殺人という凄惨な事件、続いて南隣の軽井沢では管理人を人質にした浅間山荘事件、共に連合赤軍によるもの。

嬭恋村の強盗犯は、丸一年近くたつというのに身柄が確保されたという報道はない。この犯人、嬭恋交番に勤務したことがあるというからこの辺の地理に明るい筈で何やら心配ではある。

さて、毎年のことながらシーズン最初の楽しみといえ、山道の脇に真っ先に芽を出す山独活を探しながらの散策ということになるのか。



梅を見に

青山 丈

橋で見て数の読めれば春の鴨

潮満ちて離れ離れや春の鴨

風のあと椿の蕾大きくなる

川越えて雀の下りる涅槃寺

涅槃図へきて大黒も坐りけり

橋へ来て川を渡ると水温む



あおやま・じょう

昭和5年(1930)・東京都生まれ 55年「朝」創刊会員 同本誌に師事 平成28年「朝」終刊後29年「朝」創刊・同人会長 「棒の会」代表 句集に「象談」「千住と云ふ所にて」

詩の水脈

角川春樹

あともどりできぬ枯野を渡りけり
冬ふかし死は無時間といふべかり
マスクして放下^{ほうか}に遠く生きてをり
七種粥加速のつきし月日かな
そもそもの始めは闇に火を焚けり
立春のうすき日の差す檻の中



かどかわ・はるき
昭和17年(1942)・1月8日・富山県生まれ 「河」
主宰 句集に『信長の首』『花咲錦』『檻』『源義
の日』など

特集

〈実力作家

22

人

20

句 競 詠

現在の俳句界で活躍されている
実力作家 22 人に各 20 句を
寄せていただきました。

岸原清行	行方克巳
石渡 旬	山崎十生
好井由江	木内憲子
田島和生	名村早智子
山崎房子	武藤紀子
酒井弘司	藤田直子
山田貴世	秋尾 敏
中村幸子	藤本美和子
鈴木太郎	鈴木五鈴
向田貴子	角谷昌子
源 鬼彦	山田佳乃

前列右から坂本氏、佐藤氏、小俣氏
後列右から星野氏、藤本氏、松本氏



ゲスト 小俣たか子・坂本宮尾

佐藤明彦・松本英夫

ホスト 星野高士・藤本美和子

編集部 超結社句会第50回目です。ゲストは「清の會」同人の小俣たか子さん、「パピルス」主宰の坂本宮尾さん、「童子」編集長の佐藤明彦さん、「阿吽」副代表の松本英夫さん、ホストは「玉藻」主宰の星野高士さん、「泉」主宰の藤本美和子さんです。遠慮のない意見交換をお願いします。

高士 今日は点が割れました。4点が2つあります。まず、立子忌の三色あられひとつまみ

わたしにとってはありがたい句でしたね。

㊦㊧㊨

宮尾 忌日の句にはその人らしさが出るわけですけど、星野立子という童心がある愛らしい方のことを思うと、「三色あられ」が、いかにも。という感じ。しかも、「ひとつまみ」がよくて、立子忌の句としてとてもよく出来ていると思いました。

たか子 「三色あられ」でよく忌日を表しているなと、思いました。「ひとつまみ」もあられを食べたときの感じがよく出ていると思いました。

美和子 やはり「立子忌」が3月3日ということで、雛祭りと同じということもあって、「三色あられ」で雛祭りも背景に匂ってくる。「雛」を入れずに「雛」を匂わせて立子を